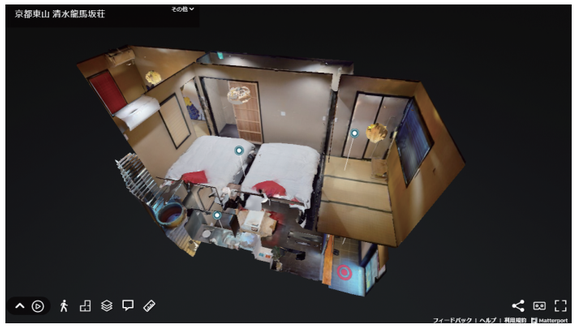
株式会社イザン
「3Dデータ化」することで伝えられる建築物の魅力

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、京町家まちづくりファンドの寄附付き商品協力企業としてご登録いただいている、株式会社イザンです。同社代表取締役の井上浩二さんにお話を伺いました。

宿泊施設の差別化を図るためのツール

私たちは、宿泊施設の運営支援や旅行者向けのサービス企画等、「たび」に関わる様々な事業を展開している企業です。

京町家まちづくりファンドの寄附付き商品にもなっている「3Dウォークスルー」事業を始めたのは、宿泊施設のPRの手法が横並びとなっている状況で、他の宿泊施設との差別化を図ることが目的でした。建物の間取りや構造を「ひと目で分かりやすく」伝えるためのツールとして画期的で、写真よりも圧倒的に多くの情報を盛り込むことができます。さらに、室内の幅や高さ等の寸法をお客様ご自身で事前に把握していただけるため、車椅子をご使用になられるお客様等にとって、バリアフリーの観点からも非常に有効だと感じています。



3Dウォークスルー
京町家の3Dウォークスルー撮影を行うと、売上の一部がファンドに寄附されます。

京町家を「3D化」することのメリット

現在、立ち入りが困難な建物や、老朽化等を理由に解体を免れなかった公共建築等について、建築を3Dデータ化する取組が進んでいます。それにより、多くの人が貴重な建物をバーチャルで内覧することが可能となりました。

京都には町家がたくさんありますが、公開されている建物や店舗でない限り、中に入ることができる機会は少なく、内部のイメージが想像しづらい人も多いと思います。町家で3Dウォークスルーを利用してもらうことで、親しみを持ってもらえたり、活用のイメージが湧きやすくなったりするのではないでしょうか。大規模建築に限らず、もっと気軽に、町家等の建物もデータ化していくことで、京都の景観を守っていく一助を担えればと考えています。

株式会社イザン 代表取締役　井上 浩二さん

株式会社イザン ホームページ　https://izan.co.jp/

京まち工房 ニュースレター 97
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3 空と月の下に **先斗町の景観づくり**

CONTENTS

P1 京都人㋜の京都知らず
P4 「八田邸」が竣工しました
P5 「MATCH YA」公開
P6 地域まちづくり・京町家の専門家紹介
P7 「私と京都」／京都人㋜の京都知らず 編集後記
P8 企業・団体紹介

令和3年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様

「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY TOURISM ASSOCIATION	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	京町家をお探しします。 株式会社 八清(ハチセ)	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都でんき Produced by HALGENE	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency

ニュースレター京まち工房　第97号　2021年12月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：http://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

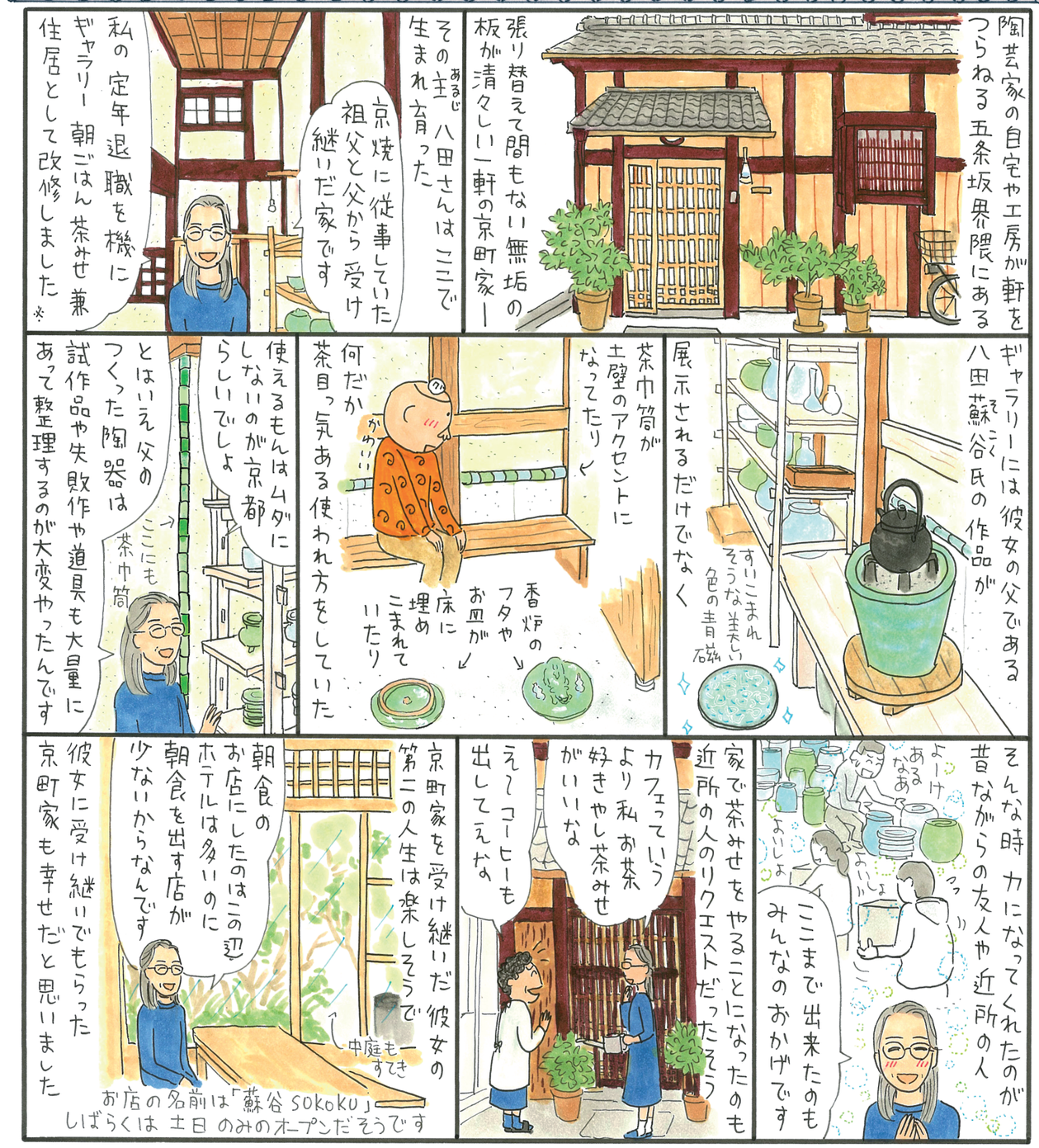
※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES ステップ1登録　この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュース レター
京まち工房 97
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

グレゴリ青山 京都人㋜の京都知らず　その15 京町家で朝食を



※八田邸の改修工事には、京町家まちづくりファンドが活用されています。（令和2年度（2020）改修助成事業）また、P4でも八田邸についてご紹介しておりますので、ぜひあわせてご覧ください。

空と月の下に先斗町の景観づくり

かつては花街として栄えた先斗町。近年は「先斗町まちづくり協議会」が中心となって地域の景観づくりに取り組んできました。
コロナ禍においても着実に取り組んできたこれまでの景観づくりを振り返り、また新たに取り組む「夜間景観」について取り上げます。
（写真は主に先斗町まちづくり協議会からご提供いただきました）

これまでの取組

先斗町まちづくり協議会（以下、協議会）は、立誠自治連合会・立誠まちづくり委員会の下部組織として、先斗町の町並みが変わっていく姿に危機感を覚えた住民や商店主たちによって結成されました。学識者や京都市、京都市景観・まちづくりセンター（以下、まちセン）のサポートを受けながら、京都市の制度の活用と自主的な修景の取組を両輪で進めてきました。現在11地域が認定されている『地域景観づくり協議会制度』の計画書認定第1号（『修徳景観づくり計画書』も同日）でもあり、同制度に基づく意見交換や、無電柱化事業や看板の修景等、近年の京都市の地域景観づくりを先導する役割を果たしてきました。

店舗看板の改善

屋外広告物についての町式目策定や特別規制地区指定に取り組みつつ、各店舗にお願いして落ち着きのある看板に改善していきました。

行灯（あんどん）設置

コロナ禍の時短営業下で20時には真っ暗になってしまった通りに、行灯を設置。協議会ホームページ等で「行灯1口オーナー」を募る一方、各飲食店に協力を求め、約70基の行灯を設置することができました。閉店と同時に灯され、景観面だけでなく安全性の向上にもつながっています。

室外機カバー設置

2011（平成23）年、協議会からの働きかけにより、複数軒の建物の所有者が共同で、室外機に木製カバーを設置しました。

先斗町軒下花展

2015（平成27）年から例年2月に開催。先斗町通のほぼすべてのお店にミニ生花を並べています。

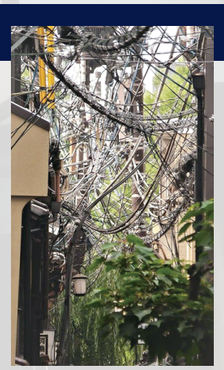
※まちセンの京町家まちづくりファンドが通り景観の修景に対し、工事費を一部助成しています。

主なできごと

2009（平成21）年	前身の『先斗町の将来を考える集い』発足
2011（平成23）年	『先斗町町式目第2条（屋外広告物に関して）』施行
同年	『先斗町まちづくり協議会』と改称
2012（平成24）年	『先斗町地域景観づくり計画書』認定
2015（平成27）年	『先斗町界わい景観整備地区界わい景観整備計画』
2020（令和2）年	先斗町地区の『屋外広告物等特別規制地区』の指定、『屋外広告物等景観整備計画』の策定

無電柱化

店舗の看板や室外機等の修景は進んだ一方、電柱や電線は目立つばかり。そこで京都市が2015（平成27）年から事業を始め、2021（令和3）年7月に全ての電柱が撤去されました。工事にあたっては、道の狭さ等の課題を技術面でクリアし、地上機器を木製カバー等で目立たなくする等の景観面の配慮もなされました。



かつての様子（2019年撮影）

これからの夜間景観の取組

様々な形で景観づくりに取り組んできた先斗町ですが、以前のオーバーツーリズム、そして現在のコロナ禍と、観光をめぐる世情に影響を受けています。一方で先斗町にふさわしいにぎわいのあり方を模索しており、先斗町通のお茶屋や飲食店、鴨川沿いの川床に代表される夜間空間を活かすことを目指しております。そこで2021（令和3）年10月、従来のメンバーにまちセンより派遣された専門家らも加わった夜間景観づくり検討チームを立ち上げました。先斗町内のライトアップ計画をつくり、ゆくゆくは先行して夜間景観の調査や社会実験が行われている木屋町通や三条大橋等の周辺地域との連携も視野に入れています。

三条大橋ライトアップ社会実験の様子（2019年9月、京都市より）

ニュースレター89号（2019年12月発行、右記QRコード）の表紙「京都人（グ）の京都知らず」にもご登場いただきました！

協議会副会長 兼 事務局長　神戸さんから

無電柱・無電線化事業も、元々は電柱の色を変えたいという考えでしたが、京都市や電力・通信事業者、そして協議会役員や地域の皆様の熱意とご尽力によって想定以上の成果をもたらすことができました。これからは「空と月の下に 先斗町」として、夜間景観の創出に取り組みます。将来的には周辺地域も巻き込んだ景観づくりに取り組んでいくことで、京都が、世界を代表する夜間景観都市となれるよう進めてまいりたいと考えています。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

防火・防災活動

2016（平成28）年に先斗町内で火災が発生し、6棟が消失。これを契機に「先斗町このまち守り隊」を結成し、防火訓練等の活動に取り組んでいます。消防車の入れない狭い路地でも火災を起こさない・すぐ消火できる体制を作ることで、町並みを守っています。

火災発生時の役割検証訓練の様子（2016年11月、京都市より）

「このまち歩き」

協議会HP

2016（平成28）年から計53回まちあるきを開催しており（2021年11月時点）、先斗町内や京都市内の各地を訪れることで、より魅力的な景観づくりに繋げています。まちづくりに関心のある方は誰でも参加できますので、詳しくは協議会HPをご確認ください。

京町家まちづくりファンド改修助成事業　令和2年度（2020）選定

「八田邸」が竣工しました

京町家まちづくりファンド（以下、ファンド）は、寄附者や関係者のご協力のもと、京都固有のくらし・空間・まちづくりの文化の継承と発展等を目的に、平成18年度からこれまでに92件の京町家の外観改修を支援してきました。このほど、令和2年度選定「八田邸」が竣工しましたので、その様子をご紹介します。

京焼に従事していた祖父・父から受け継いだ京町家

五条坂にほど近い、京焼（清水焼）の窯元が建ち並んでいた地域に位置する「八田邸」。かつてこの地で京焼に従事していたお祖父様・お父様から八田さんが受け継いだ京町家を、定年退職を機に、カフェ・ギャラリーを併設した住宅として改修されました。ファンドでは、大屋根や外壁の改修について助成を行っています。

改修後

改修前

カフェスペース

ギャラリー

地域の文化活動拠点としての新たな出発

八田さんはこどもの頃からこの町家に住んでおり、親しいご近所の方々や、応援してくれるご友人に後押しされる形で、11月3日にカフェ・ギャラリー「蘇谷 sokoku」のオープンに至りました。八田さんにとって、これまでのお仕事とは全く異なる挑戦です。

シニア食堂や朝ごはん、喫茶の営業を行いながら、お父様の京焼の作品を展示するギャラリーを運営していかれます。また、書道・短歌教室、着付け教室等の文化体験ができる場として活用される他、引き続き、町内会の行事・祭事の場や、地蔵盆・御火焚きの際等の作業場としても開放される予定です。住宅だった京町家が、地域の方に広く親しまれる場として根付くことを願っています。

京町家まちづくりファンド　令和3年度（2021）改修助成事業が3件選定されました

令和3年8月23日に第46回ファンド委員会が開催され、令和3年度改修助成事業として、前年度に引き続いての選定となった吉田神楽岡旧谷川住宅群の他、祇園祭の町会所である郭巨山町会所、三条会商店街の町家の3件が選定されました。

吉田神楽岡旧谷川住宅群

郭巨山町会所

三条会商店街の町家（プレマルシェ三条京町家）

京町家まちづくりファンド　WEB・Instagram　開設

京町家まちづくりファンドのWEBサイトが9月28日にリニューアルしました。同時に、公式Instagramアカウントも開設し、進行中の改修助成事業等についても随時情報をお届けしておりますので、ぜひフォローをお願いします。

URL　https://kyoto-machisen.jp/fund/　　Instagram　@kyoto_machiya_fund

WEB　　KYOTO_MACHIYA_FUND Instagram

未来と町家をマッチする

「MATCH YA」公開

MATCH YA（マッチヤ）は京町家をはじめとする歴史的建造物の継承に向けて、京町家等継承ネット（事務局：公益財団法人京都市・景観まちづくりセンター）が運営する公民連携の不動産情報ポータルサイトです。

京町家等のクリエイティブ拠点創出に向けて

京町家等継承ネットでは、この度、国土交通省補助事業「令和3年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業」への申請を行い、採択されました。

主な内容として、京都に拠点進出を検討されている、首都圏のIT企業やクリエイティブ企業、起業家などの担い手の掘り起こしや、大型町家をはじめとする歴史的建造物の利活用の促進を図ります。その具体策の一つとして、ポータルサイト「MATCH YA」を公開いたしました。

MATCH YA とは

「MATCH YA」では、京町家の探し方、使い方がよくわからないという企業のニーズにお応えし、京都らしい歴史や文化を感じる京町家等の不動産情報及び活用事例を公開しています。

「MATCH YA」の制作にあたり、京町家等継承ネットの会員による検討会において、不動産情報の掲載要件や訴求するためのデザインコンセプトなどについて検討を重ねました。

検討会参加メンバー

京都美術工芸大学	教授	髙田　光雄
京都府宅地建物取引業協会　情報提供委員会	委員長代理	山田　崇博
全日本不動産協会京都府本部	理事	田中　勇人
京町家居住支援者会議	事務局長	吉田　光一
都市居住推進研究会	運営委員	西村　孝平
京都府不動産コンサルティング協会	副理事長	山下　善彦
	理事　相談役	井上　誠二
	相談役	岡本　秀巳
京町家情報センター	幹事	井上　信行
	事務局長　スティーブン　ホアン	

MATCH YA の情報コンテンツの内容

01　京町家等の不動産情報

不動産関連団体及び事業者にご協力いただき、適切な利活用が求められる文化的価値を有する京町家、古民家、近代和風住宅等の歴史的建造物に特化した不動産情報をMATCH YAがセレクトし、積極的に発信をしています。

協力不動産関連団体

公益社団法人 京都府宅地建物取引業協会

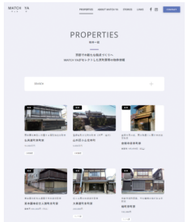
公益社団法人 全日本不動産協会 京都府本部

公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会 京都府支部

一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会

京町家情報センター

京町家居住支援者会議



物件一覧のページ

02　京町家等の活用事例・手法の紹介

オフィス、コワーキングスペース、ショールーム、迎賓館、複合施設などの比較的新しい活用事例に注目し、京町家等の活用事例・手法を随時紹介していきます。

【活用事例の一例】

「京都もやし町家」は築120年以上の京町家で、現在はレンタルスペースとして多目的に活用されています。所有者・運営者から京町家との出会いや運営方針などをお聞きしました。改修設計は建築家の魚谷繁礼氏が担当され、所有者の「京町家の魅力を利用者が経験できるように」との要望に応えた改修をされています。詳細はストーリーページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

活用事例 ： 京都もやし町家

「MATCH YA」未来と町家をマッチするポータルサイト
URL：https://kyoto-machisen.jp/matchya/

Instagram：@kyoto_matchya
SNSと連動し、WEBサイトの更新情報を発信していますのでぜひご活用ください。

KYOTO_MATCHYA

お問合せ先：受付窓口
京町家等継承ネット（事務局：（公財）京都市景観・まちづくりセンター）　電話：075-354-8701　E-mail：matchya@kyoto-machisen.jp

第23回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

住み継がれる京町家を ―縁を繋ぐ―

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。
このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

今回はこの方!

田原（たはら） 利晃（としあき） 氏 田原工務店代表／京都府建築工業協同組合理事長

昭和34年 京都市上京区生まれ　近畿大学建築学部建築学科卒業
令和3年6月 京都府建築工業協同組合理事長に就任
京都市京町家耐震診断士／二級建築士／京町家相談員（大工）／京町家カルテ調査員

― 明治8年創業の家業

家業を継ぐことは子供の頃から当たり前のように思っていました。もしかしたら親が夜な夜な耳元で囁いていたのもかもしれませんね。うちでは修業期間に年長の番頭さんから教えを受け、技術を身につけていきます。昭和17年生まれの番頭さんには自分と息子、親子二代にわたり世話になりましたが、その番頭さんも今年引退。寂しいですね。大工仕事は先輩の仕事を見て覚えて自分のものにしていく、それが基本。でも、聞けばしっかりと教えてくれます。10年程で、やっと仕事や現場全体の流れがわかるようになりますが、一生勉強です。

改修を手がけた寺院

― 大工仕事の魅力、やりがい

家というのは一生に一度の高い買い物。それが短命であってはならないと思います。丁寧に手をかければ時代と共に住み継ぐことが可能。そのため、建物は建てて終わりではありません。ここ2年はコロナの影響で施主さんへの訪問も難しくなってしまいましたが、毎年、引き渡した時期に葉書を出して建物の状態を伺い、点検を行います。何もしなければ縁が切れてしまいますが、毎年顔を合わせることでお互いに代替わりができます。そこからまた更に縁が繋がる。大変な時もありますが、続けていきたいと思います。施主さんに喜んでもらえたら何よりも嬉しいし、自分の仕事を見直す良い機会にもなります。

― 京都府建築工業協同組合理事長として

「京町家は暗いし寒いし、よう住めへん」と言われてきましたが、技術や設備の進歩で安全性や居住性が格段に向上しています。更に今、若い人達が様々な捉え方で京町家の良さを見出し、残るようになってきました。古い建物を残す為には古い技術が必要。しかし、機会がないと覚えられません。組合では「葭塾（よしじゅく）」を開催し、茶室やお地蔵さんの祠、お神輿など、普段は造らないものを造ることで若い人に技を伝えています。完成した茶室は二条城北小学校へ、祠は銀閣寺近くの町内へ寄贈しました。次回は駕籠（かご）を造りますので、完成を楽しみにしていてください。

改修を手がけた長屋

― 古い技と新しい技

大工道具は先代の物を守りながら自分好みの物を作り上げていきます。伝統技術も同じだと思います。古い技と新しい技、それぞれの良いところを取り入れながら京町家を継承していく、それが我々の使命です。そのため、一人でも多くの職人さん、特に若い職人さんに組合に加入して頂き、先人たちの知恵と技を継承していきたいと考えています。また、ITを活用した在庫管理などで木材や設備等の管理業務の効率化を目指しています。SDGsにもつながりますしね。植木や造園についても、もっとより深く学びたい。京町家カルテ調査の際、よく樹木について尋ねられますが、わからないものもあり、まだまだ勉強が足りないと感じます。庭も含めて京町家ですから。

私と京都

文化イベントでサスティナブルな跡地利用

MUZ ART PRODUCE 代表 ・ 京町家まちづくりファンド委員会委員

カルドネル島井（しまい） 佐枝（さえ） 氏

元九条湯

子供の頃、鴨川沿いに建ち並ぶ町家が過ぎていく風景をトラベリングのように、電車の窓からスペクタクルとして眺めていたのを憶えています。

京都教育大学で日本画を専攻し、京都画壇の先生方の指導を受けました。在学中に訪れた欧州で、石の堅固な建築の文化に腰を抜かすほど圧倒されました。それがきっかけで、自分のルーツを確保するために日本画の画材や技法を使いながらも、まるで木と紙と土の文化で育った自分のコンプレックスを振り払うかのように、欧州の自然や石の建築の風景を描き続けました。卒業しても日本と欧州を行ったり来たりしながら制作と発表を続けました。

当時私は京町家という建築が理想的なアトリエだと考えていました。3間続きの和室は、引きをとって自身の制作の経過を眺めるにはもってこいの環境でした。現在は外観を保ちながら、内部を自分たちに合ったスタイルにリノベーションした町家で夫と3人の子供たちと暮らしています。柱や壁、床には自然の素材しか使用されていないので心地よく過ごせます。

出産や子育てを機に一旦制作の筆を置き、現在は、文化イベントの企画に主に携わっています。

2000年代から京都国際フランス学園、京都国際音楽フェスティヴァル、京都国際写真祭、ニュイ・ブランシュKYOTO、京都文学レジデンシーなど、“京都”や“国際”の文字がつく機関の運営に関わる機会が多くあります。伝統を守りながら新しいことを創り出すには努力が必要ですが、長い歴史がある京都で新しいことをするからこそ価値があると信じて日々活動をしています。

特に今は元小学校や、元銭湯など跡地利用に関心があります。下京区の元淳風小学校が廃校になってから2020年まで、京都国際写真祭の同時開催イベント「KG+」のメイン会場として昭和のレトロ建築の校舎で展覧会を開催しておりました。訪れる人々は授業参観に来た保護者のような面持ちで教室の中の作品を見て回ります。ギャラリーでも美術館でもない小学校という皆が通過した場所で、アーティストと鑑賞者が同じ立ち位置で表現と共感ができる場所作りに努めました。

南区の元九条湯は宮大工が建てた立派な建築が残る銭湯です。学生に特化したアートプロジェクト「ARTAOTA」を開催し、学校間の垣根を越えた若者同士の表現と交流の場にしています。

下京区の旧五条楽園では、時間とともに風化しつつある記憶を呼び起こし、最先端を行く女性のアーティストに表現してほしいと「Red Line」という企画を始めました。

東山区の五条坂京焼登り窯では歴史の中に埋もれそうになっている産業遺産を利用して、当時京焼に関わった人々の思いを残すプロジェクトをアーティストと続けています。

これらの空間は歴史上の人の流れの変化を見せる残骸のようにも見えます。それらの残骸に文化的な別の空気を吹き込むことで新たなる動きが生まれることを期待しています。過去を時系列で学び、私たちが今置かれているところを解析し、しかるべき方向に未来を築くことを目標に。

京都人㋜の京都知らず 編集後記

今回は、京町家まちづくりファンドで助成をさせていただいた「八田邸」にグレゴリさんと訪れました。この日は、庭に面して新設された窓から明るい光が差し込む、気持ちのいいカフェスペースでお話を伺いました。次から次へと初めてのことに挑戦される八田さんのエネルギーが、この地に長く佇んできた町家にも注がれているような印象を受けました。オープン後、早速朝ごはんを食べに伺いましたが、どれも素材を生かしたやさしい味でとても美味しく、午後の喫茶で出される甘味にも期待が膨らみました。お父様の作品は、ギャラリーに展示されているだけでなく、室内の床や壁等、様々な場所に隠れており、遊び心に溢れています。皆さんもぜひ見つけてみてくださいね。（長野）

蘇谷 sokoku さんは、都会の中にあるのにとても静かでした。取材時に、八田さんがつくった発酵あんこをいただいたのですが、やさしい麹の自然の甘さが、このお店の性格を物語っているようでした。庭には鳥も遊びに来ていて、これからここは、鳥にとっても人間にとっても、都会のオアシスとなることでしょう。

著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。『グレさんぽ　猫とかキモノとか京都とか』（『京都人㋜の京都知らず』収録）等、京都が舞台の著書多数。現在、京都国立博物館のホームページ（https://www.kyohaku.go.jp/）で『グレゴリ青山の深掘り！京博さんぽ』を連載中。